

国際法外交雑誌

第83巻（1984年度）総目次

論説

グロティウス「戦争と平和の法」における合意論

木村 實 …… 1-1(1)

グロティウスにおける戦争と諸国民の法

——正当性と合法性の交錯——

河西直也 …… 1-31(31)

グロティウスのimperiumおよびdominium概念に関する一試論

田中 忠 …… 1-64(64)

国際法の法的性質に関する覚え書（1）

——「法と強制」の問題を手がかりとして——

尾崎重義 …… 2-1(153)

国籍単一の原則に対する疑問

芹田健太郎 …… 3-1(267)

人権条約に付された留保の取り扱い —— 人権条約実施機関の対応の仕方を中心として ——

薬師寺公夫 …… 4-1(367)

フォークランド戦争の原因とその教訓

高坂正堯 …… 5-1(481)

フォークランド（マルビナス）諸島の領有権紛争と国際法

安藤仁介 …… 5-26(506)

国連海洋法条約に対する一方的宣言 —— 署名時の解釈宣言ないし留保に関連して ——

中村 洸 …… 6-1(619)

研究ノート

非同盟と中立——ユーゴスラヴィアにおける研究を中心にして——
定形 衛 …… 3-44(310)

米州人権委員会による現地調査活動
北村泰三 …… 4-61(427)

ニカラグワに対する軍事的活動事件（国際司法裁判所判例評釈）
小和田 恒 …… 6-33(651)

英国の「一九八四年外国出訴期間法」——国際私法における消滅時効・出訴期限の性質決定——
高桑 昭 …… 6-66(684)

資料

国際連合行政裁判所の判決第二七三号の再審請求（勧告的意見）
皆川 洸 …… 1-94(94)

国際法委員会第三五会期の審議概要
川島慶雄 …… 2-41(193)

フォークランド（マルヴィーナ）紛争の処理過程
河村武和 …… 3-64(330)

国家の財産、公文書および債務に関する国家承継条約採択国連全権会議
村上和夫 …… 4-90(456)

わが国の裁判所による国際法適用の諸先例（二八）——昭和五六年——
祖川武夫 小田 滋

国際法協会第六十回（一九八四年）パリ大会報告 …… 6-89(707)

紹介

Charles S. Edwards, “Hugo Grotius, The Miracle of Holland”
山下泰子 …… 1-142(142)

国際法事例研究会編
「国家承認」——日本の国際法事例研究（一）——
田畑茂二郎 …… 2-60(212)

河村一夫著「近代日中関係史の諸問題」
大山 梓 …… 2-64(216)

桜井雅夫著「国際経済法の基本問題」
小原喜雄 …… 3-76(342)

横山宏章著「孫中山の革命と政治指導」
黄 昭堂 …… 3-80(346)

島田征夫著「庇護権の研究」
川島慶雄 …… 3-84(350)

馬場伸也著「地球文化のゆくえ」
中原喜一郎 …… 4-108(474)

Shigeru Oda & Hisashi Owada,
“The Practice of Japan in International Law”
東 寿太郎 …… 5-125(605)

Denys Simon, “L’interpretation judiciaire des traite d’organization internationles”
佐藤哲夫 …… 5-129(609)

山本吉宣・薬師寺泰蔵・山影進編
「国際関係理論の新展開」
大隈 宏 …… 6-116(734)

Attar Chand, “Nonaligned Nations, Arms Race and Disarmament”
杉島正秋 …… 6-120(738)

会報

皆川洸名誉理事の逝去を悼む …… 2-109(261)
川上敬逸先生の逝去を悼む …… 2-112(264)
一九八四年度国際法学会春季大会 …… 3-89(355)
一九八四年度国際法学会秋季大会 …… 6-124(742)

主要文献目録（一九八三年） …… 2-69(220)

総目次（第八十三巻） …… 6-141(759)